



FUCHU

東京支部のホームページが、 15年ぶりにフルリニューアル！！

令和8年1月に公開予定です

【現行】



【フルリニューアル後】



府中高校同窓生、関係者の皆さん、おかわりございませんか。

めまぐるしく変わる政治・経済情勢、年々激しくなる気候変動、それぞれの人生を懸命に生きておられることと思います。

さて、今年から総会・懇親会場が、御茶の水駅近くの「東京ガーデンパレス」に変わりました。コロナ後、人々の生活様式・志向に大きな変化はあるものの、人が直接会って語らうことの大切さが再認識されていると感じます。

支部名簿上では非常に少ない平成卒の若い会員の

更なる発掘に向け、いっそうの工夫が必要と考えました。

懸案の一つだったホームページのフルリニューアルに着手しています。上記、左が現在のホームページ、右側がフルリニューアル後のトップページです。

現在のスクールカラー「紫紺」を採用し、各種情報にアクセスしやすく、問い合わせや参加申し込み等がしやすい画面になります。

母校の正門から見た校舎のイラストは、平成15年卒のヒラノトシユキさんの作品です。

新しいホームページは令和8年1月公開予定です。ぜひお楽しみに！！

公式Instagramも始めました

既存のFacebookページ、Facebookグループに加えて、Instagramも始めました。

総会・懇親会や幹事会の様子だけでなく、ゴルフ同好会・カーブ観戦同好会・日本酒同好会、「年次世話人懇談会」「NEKI de プチ・プチ同窓会」「大人の社会見学」などいろいろな支部活動をアップします。

情報発信頻度を上げ、支部に未登録の同窓生が、同窓会について関心を持つきっかけになれば幸いです。



11月2日（日）に開催された、大人の社会見学、駅からハイキング「新日本橋七福神巡り」の様子



令和7年5月24日（土）東京ガーデンパレスにて 総会・懇親会を開催！！



浜崎ゆめ乃さん（昭和61年卒）

「おかえりなさい」
「花咲く旅路」
「ジャンバラヤ」
「バラの町～Fukuyama」
アンコール
「銀の龍の背に乗って」





令和7年度 総会・懇親会 出席者 卒業年順・敬称略（　）内は旧姓 ご来賓・ゲスト

本部会長 今川 智巳（さとみ）様（46年卒）
本部幹事長 宮脇 功 様 （49年卒）

関西支部支部長 小谷 敬昭様 (56年卒)
ゲスト 浜崎 ゆめ乃様 (61年卒)

24年卒	鴨田 幸信	今川 修吉	本宮 正暁	芥川 容子	54年卒	皿田 泰二	60年卒	齋川 陽子
松坂 隆之		岩田 功	宮坂 初恵	(横山)	井上 清明	松田 吉紀	久保田 知美	(伊野木)
	42年卒	大浦 敬之	(福地)	亀山 澄美	前田 文子	鎌田 純子	(高橋)	濱崎 和子
36年卒	川部 武郎	影山 修一	野宗 孝司	(菊岡)	(河相)	(中尾)	今田 浩明	(廣本)
太田 恵子	原 美知子	後藤 輝明	宮脇 功	橘高 義治	山田 伸哉	舛元 仁志	尾間 えみ	
(佐藤)	(名和)	田辺 吉昭	岡本 光正	滝口 洋子	福知 薫		(三船)	
貢原 雅恵		林 直美		(中山)	(河面)	58年卒	矢部 輝美	鎌倉 靖夫
(木下)	44年卒	(水田)	50年卒	矢倉 靖子		松葉 達憲	(石岡)	光成 和真
菊岡 和俊	宮崎 孝直	藤木 利明	小田 昌一	(佐々田)	55年卒	児玉 和久	河田 克也	
桑田 制三	近藤 宣行	藤原 善充	宮崎 賢二	山岸 清美	栗根 康浩	加藤 雅子	木村 明美	H2年卒
広川 克郎	(大元)	橋本 幸一		(石川)	谷口 典子	(瀬尾)	(村田)	重枝 紀信
			51年卒	光成 慎二	(横山)	近藤 信章	徳永 智士	
38年卒	45年卒	48年卒	佐藤 宏一	藤井 一将		古賀 仁美	宮本 弘康	H3年卒
菊岡 博子	小川 修司	脊尾 宜徳	中山 ひとみ		56年卒			
(佐藤)	木村 久丹彦	田部 啓治	金子 由紀子	53年卒	藤井 康雄	山崎 知子	61年卒	田辺 智也
		黒河 宏之	(馬場)	小川 由美子	小谷 敬昭	(戸田)	望月 育代	
40年卒	46年卒	五十嵐 志津	中山 幹彦	(柿本)	中畠 真治	大下 龍蔵	(真谷)	H11年卒
岡田 知行	佐藤 信之	(栗栖)	松岡 信宏	菊地 真由美	佐々木 博章			稻垣 元博
小原 匠世	今川 智巳	田中 義正		(桐島)	飯田 泰弘	59年卒	高橋 弘一郎	樋崎 司
寺岡 輝人		志田 和津志	52年卒	江草 稔	戸田 哲也	入江 正徳	田辺 真弓	
藤岡 克己	47年卒		高井 信子	佐藤 浩喜			長澄 和延	H15年卒
錦古里 素子	加藤 仁美		(稻垣)	森迫 麗弘	57年卒		立石 梨恵	岩岡 隆之
(佐藤)	(佐藤)	49年卒			長谷川 陽一		村田 和枝	皿田 修一
		殿元 清司					(川上)	

計報

謹んでご冥福をお祈り
いたします

20年卒	横藤田 載義 様	33年卒	毛利 穎次 様
22年卒	高西 忠司 様	35年卒	近藤 征二 様
25年卒	小川 功 様	39年卒	奥田 真人 様
27年卒	長谷川 好照 様	40年卒	木村 脩造 様
28年卒	鎌倉 照光 様	41年卒	品川 裕明 様
32年卒	前川 克也 様	52年卒	赤利 知久 様

求む！ サポーター（総会当日だけのお手伝い）

このたび、総会当日のお手伝い(受付の補助等)をお願いする「サポーター」制度を始めました。既に4名の会員の方に、5月の総会・懇親会当日のサポートをしていただきました。

ご都合の許す範囲で、ご協力いただけますと助かります。

本件の窓口は、幹事長 中山 幹彦までご連絡ください。（昭和51年卒 高27回）

nakamiki0825@gmail.com

東京支部は平成元年に発足以降、50歳前半になられる卒業年次の方に当番幹事を担っていただきてきました。その活動を通じ同期同士のご縁が深まり、その後の同窓会活動が活性化する効果がありました。

しかしながら、30年続いたデフレによる経済的な問題と、阪神淡路大震災以降、「ご子息を遠くに行かせたくない、お子さんも遠くに行きたくない」という現象なのか？首都圏への進学者数が激減しました。（ここ何年も、首都圏大学への進学者は毎年10人未満です）

当番幹事は単学年で行っていましたが、近年は3学年、4学年合同の幹事団で事にあたってきました。

ついに平成卒業の方が50歳代を迎え、その複数学年幹事さえ構成することが叶わなくなり、支部幹事のうち総会担当の幹事が、役割分担をして担うことにしました。幹事だけでは手が足りず今回のお願いとなります。

同窓会東京支部の目的は、「会員の幸せと母校と故郷への貢献」です。ご自身のまず御身が第一ですが、もし、お時間とお気持ちに少し余裕がありましたら、サポーターとしてご協力いただけますと幸いです。

通信連絡賛助金について

20年前、支部会報により懇親会の様子や支部活動をご報告し、その情報料として任意の「通信連絡費助金」を設け、それを会報の発行費用に充てようと始めました。

会報によって「懐かしい府中の香り」を感じ、「同窓生の元気をもらえる」と言ってくださる方も多く、おかげさまで昨年は、例年より1割以上多い194名の方からご芳志をいただきました。本当にありがとうございます。

デジタル化が進む中ではありますが、もうしばらくは紙の発行を継続致したく、ご賛同いただけましたら、以下の3つの方法のうちいずれかでお一人様一口1,000円からのご協力をお願い致します。

◆通信連絡賛助金のお支払い方法◆

- 添付のゆうちょ銀行の振込用紙をお使い頂き、東京支部の口座へお振り込みください。
ゆうちょ銀行 口座番号：00280 1 82136
名 義：広島県立府中高等学校同窓会東京支部
*お名前・ご連絡先・卒業年をお忘れなくお書きください。
 - ネットからの振り込み
銀行名：ゆうちょ銀行 預金種目：当座
支店名：0二九（ゼロニキュウ） 口座番号：0082136
 - 総会・懇親会当日ご持参いただき、受付にて担当者にお渡しください。

通信連絡賛助金 寄付者一覧

(令和6年4月1日～令和7年3月31日まで) 來年順：敬称略)

支部会計年度に合わせてお届けするため、令和7年5月の総会時のご寄附は、次回（令和8年12月）での紹介となります。

母校への貢献

東京支部では、恩師および卒業生の著作（書籍・絵画・彫刻・イラスト・写真・書・音楽CDなど）を高校図書館に寄贈する活動に取り組んでいます。

今年度は下記の6作品を高校図書館に寄贈いたしました。

東京支部会員のみならず、全ての府中高校同窓会会員に情報提供を呼び掛け、作品情報を収集しています。ご自身や身の回りに、著者や作品情報をお持ちの方がおられましたら、どうかお知らせください。

連絡先：sodasoda005@gmail.com（副支部長 総務・企画担当 小田 昌一 昭和50年卒）

著者	書名	出版社	発行年	卒業年
大須賀 隆子 (共著)	『童話療法の展開 ——自己再生の表現療法』	ゆまに書房	2018年	昭和47年卒
大須賀 隆子	『子ども主体の造形表現への変革 <small>宮武辰夫の「生きもの」思想を土台とした方法論「全身のスクリブル」と実践』</small>	溪水社	2023年	
著者紹介：旧姓：正木 隆子				
お茶の水女子大学に進学。大学在学中には研究テーマが見つからず、ともかく「現場」を体験したいと考え、校内暴力全盛期の公立中学校の教員になった。怒涛の教員生活を6年間勤め、夫の転勤を機に退職。				
1995年、公立中学校にスクールカウンセラーが配置されることになった。大学でも、荒れた中学校が研究対象になり、臨床心理士養成課程が設置された。下の子の小学校入学を機に、同上大学の臨床心理士養成課程に再入学した。再入学後に、お茶大附属幼稚園（東京女高師附属幼稚園）は日本初の幼稚園であり、大正期に主事を務めた倉橋惣三の「自ら育つものを育たせようとする心」の保育理念は現在の幼稚園教育要領や保育所保育指針に継承されていることを知った。				
同上幼稚園をフィールドにした修士論文が契機となって、都内短大の保育者養成校に勤務することになり、その後、山梨県の4年制大学に勤務した。短大・大学での保育者養成実践研究を『童話療法の展開』に所収。勤務の傍ら、お茶大大学院博士後期課程に通い、10年間かけて論文を執筆、2020年に博士号を取得。その博士論文に加筆修正したのが『子ども主体の造形表現への変革』である。				
本書は、1950年代に、第二次世界大戦の惨禍を二度と繰り返さないための人づくり、つまり、想像力と創造力を發揮できる子ども主体の保育を悪戦苦闘しながら模索した宮武辰夫の実践を辿っている。それは、自身の中学校教員時代の問題意識の解決と克服、そして、今後の課題の方向性を追究するための悪戦苦闘でもあった。				
小寺 正洋	『英語抽象名詞の可算性の研究』 <small>英語教育の視点から</small>	ひつじ書房	2024年	昭和50年卒
著者紹介：関西学院大学文学部英文学科卒業 ダルハウジー大学（カナダ）教育学修士（MEd） ケンブリッジ大学（イギリス）英語・応用言語学修士（MPhil） バーミンガム大学（イギリス）英語・応用言語学博士（PhD） 京都聖母女学院短期大学准教授を経て、阪南大学国際コミュニケーション学部教授 現在、阪南大学名誉教授 研究の中心課題は、英語の名詞の可算性。				
斎川 陽子 (共著)	『大人のジュエリー ルールとコーディネート』	誠文堂新光社	2016年	昭和61年卒
著者紹介：ジュエリー卸会社の企画営業として、海外ブランド立ち上げ百貨店催事等担当。代官山にてオーダージュエリーショップ店長、5年間御徒町にて加工・デザイン・卸ショップ共同経営。銀座にてジュエリーショップ店長、デザイナー、宝石相談、セミナー講師を務める。				
現在中目黒を拠点にフリーとして活動中。宝石珊瑚をはじめジュエリーデザイン、宝石相談、海外買い付け、ジュエリーメーカーコンサル、アドバイス等を手掛ける。				
またカラー診断+ジュエリーコーディネートアドバイスも人気あり。1年半で300名の実績あり。				

前ページから→

母校への貢献

著者	書名	出版社	発行年	卒業年
藤田 卓也	『伝え方で損する人 得する人』	SBクリエイティブ	2024年	平成17年卒
著者紹介：1987年生まれ。新市中央中、府中高校を経て、京都大学工学部、東京大学大学院工学系研究科修了。電通に入社し、1年目からコピーライターに配属。以降、コカ・コーラやIndeed、マクドナルドなど様々な企業の広告キャンペーンを企画制作。ファミリーマートの「コンビニエンスウェア」には立ち上げから関わる。2022年からヤフー（当時）に加わり、ブランドコミュニケーション全般を担当。				
浜崎 ゆめ乃	CD『バラの街～Fukuyama おかえりなさい』	自主製作	2022年	昭和61年卒
著者紹介：福山市出身。本名：濱崎 和子 2004年6月 Doo-wopバンドにて音楽活動をスタート。コーラス担当 2009年1月 声楽家 渡部光子氏に師事、ボイストレーニングレッスンを受ける。 2011年3月 ハンナゴスペル所属し、ゴスペル音楽を歌う。2017年ハンナゴスペルヨーロッパ贊美旅行。ドイツ聖トーマス協会にて聖歌隊として贊美。フィンランド各地でコンサート出演。 2018年6月 Fork Rockバンド「Violetmoon」始動。ボーカル、ストーリーテラーとして「中世ヨーロッパの世界を旅する吟遊樂団」の世界を繰り広げる。 2019年以降、ハワイでのゴスペルコンサート、パレードに複数回出演。 2022年9月 新曲：『バラの街～Fukuyama おかえりなさい』cover 現在に至るまで、尾道、福山を中心としたコンサートに多数出演。 2024年10月 第38回広島市民平和の集い 平和コンサート出演。 2025年5月 世界バラ会議福山大会「ROSE CITY SOUND PROJECT」にて優秀賞受賞。				

同窓生寄稿①

昭和61年卒 望月 育代（旧姓：眞谷）

1986年卒の望月 育代（眞谷）です。高校卒業後、都留文科大学で教員免許を取得。山梨県内の中学校で英語科教諭をして、ここ数年は富士北麓の小中学校で外国にルーツのある児童生徒に日本語指導をしながら健康第一に活動中です。

昨年初めて、府中高校東京支部同窓会・懇親会に参加させていただきました。同期生（61年卒）は以前から繋がりや活動がたくさんあり、カープ観戦やランニングなどで交流がありました。同窓生の存在には、いつもエネルギーをもらいます。それで今年も東京支部総会に参加しました。

高校時代、私は陸上部、フォークソング部、生徒会執行部に所属。いろいろやってみたくて首を突っ込み、それを周りの方々に支えてもらいました。

フォーク部ではT-BORANの森友嵐士さん（でんべえ先輩）が3年の時、私は1年。でんべえ先輩たちの弾き語りに感激して涙したことも…。今年の東京支部同窓会総会・懇親会アトラクション出演された浜崎ゆめ乃さんは同期生。『バラの街～Fukuyama～』を歌う「こうもっちゃん」の伸びやかな歌声は、今も心に残っています。

陸上部では短距離専門。夏に「三郎の滝」へランニングをしたことは懐かしい思い出です。昨年の東京支部同窓会で2名の先輩方に約40年ぶりの再会。その後LINEグループに招待されたご縁で、広島県で小学校教諭をされている先輩と山梨で再会する機会をいただきました。

生徒会執行部には役員選挙を経て途中からの参加。忙しかったけれど、やりがいのある活動でした。当時の執行部の中には、東京支部の活動を支えているメンバーもいて、感謝です。

大学で地域や自然について考え活動する中で、私は子どもたちにかかわる仕事がしたいと思うようになりました。教員に。広島と山梨では、道徳教育（特に平和教育と同和教育）に大きな違いがあるのを感じました。山梨では、原爆や平和問題について取り上げられることは少ないです。

でも山梨県東部の中学校では、修学旅行で京都・奈良と広島を訪れた時代があり、私も約10年前に生徒たちとヒロシマを訪れました。富士北麓で中学校教諭をしている同期生のKさんは、修学旅行の後で生徒たちと共にヒロシマをテーマにした演劇を創り、学園祭で発表する取り組みをしました。

今年は戦後80年、ヒロシマ・ナガサキ被爆80年であり、戦争・平和の問題が多く取り上げられています。外国ルートの子どもたちと学ぶ中で、差別や暴力、戦争や紛争が一日も早く地球上からなくなる日が来てほしいと思います。皆が健康に幸せに生きられる日常、人々のおだやかな笑顔が大切に守られていくことを願っています。



同窓生寄稿②

“カープ初優勝から50年”で盛り上がった支部総会

広島支部幹事長 龍田 英二(高校24回 昭和48年卒)

1975年10月15日17時16分、カープが東京後楽園球場での対巨人最終戦に勝利し初優勝を決め、古葉竹識監督が宙に舞った歓喜の瞬間です。当時、東京在住の学生だった私も当日のチケットを買ってスタンドで観戦しました。東京支部でも観戦された会員の方がおられるのではありませんか。

あの日から50年目の今年、4月6日に開催した第32回支部総会では、あの試合の先発勝利投手となった外木場義郎さんを招き、HTV広島テレビ元アナウンス部長の小森山國夫さん(高校8回 昭和32年卒)とのトークショーを開催しました。外木場さんには当時を知る会員の質問にも丁寧に答えていただき、カープファンには最高のトークショーでした。懇親会にも出席された外木場さんの周りには、ビール瓶を持った会員の姿が絶えることはなく、最後まで盛り上がっていました。

もう一つ支部総会を盛り上げたカープつながりのエピソードがありましたので紹介します。

4月5日に放送された「TSSテレビ新広島開局50周年記念番組」の中で、「カープ初優勝をスタンドで観戦したファンを探せ!!」という企画がありました。

その企画の口ヶが3月31日の午前中からスタートし、新人アナが本通りやカープファンが集まる店で目当てのカープファンを探していたのですが、なかなか見つからないところへたまたま通りかかったのが岸房支部長でした。マイクを向けられるとすぐに「それなら知ってるよ」と私のことを話し、その日の17時に安佐南区の緑井駅前で新人アナのインタビューを受けました。そしてその模様は、支部総会前日の4月5日の12時からの記念番組の中で放送されました。

そもそもその発端は、3月24日のホテルとの打ち合わせのときに、「あの試合を見たので外木場さんに会えるのが楽しみです」と岸房支部長に話したことでした。だから“たまたま”が重なって新人アナが私にたどり着いたのです。事前の打ち合わせも仕込みもありませんでした。私達の出番は3分くらいのものですが、番組は録画して支部総会の懇親会で流しました。

今年の支部総会は、外木場さんのトークショー、そして“カープ初優勝から50年”にまつわるエピソードで盛り上がり、忘れられないものになりました。



同窓生寄稿③

平成11年卒 田中 美紀（旧姓 向 美紀）

「絵を描くことが仕事になっているよ」

そう高校時代の私に伝えたら、目を丸くして驚くかもしれません。

私は神石高原町（旧・三和町）時安の山の中、牧場の長女として生まれ育ちました。蛇も素手でつかまえるほど元気で、広告の余白にドレス姿のお姫様を描いては夢中になっていた子供時代でした。中学2年の時、美術の先生から「1000人に教えてきた中で3本の指に入る」と褒められたことが、私にとっての転機になりました。

絵のことしか頭になかった私は、高校入学と同時に福山駅近くのYMCA美術予備校に通い始めました。福山市内の母方の実家から府中高校に通い、放課後は画塾へ。16歳の田舎育ちにはなかなかの冒険でした。外の環境の変化に心が追いつかず、家族や祖母に心配をかけたこともあります。今になって深く反省しています。特に天国のおばあちゃん、本当にごめんなさい。

お陰様で現役でなんとか美大に進学しました。ところが、夢に近づいたと思ったのも束の間、「受験の絵」と「自己表現の絵」のギャップに戸惑い、肝心の「絵で生きる術」は見つけることができませんでした。自分の中に描きたいものが見つからず、絵筆を遠ざけることに。描きたいのに描けない……。そんな苦しい日々が何年も続きました。

そんな中、私の想いを受けとめてくれるパートナーと出会い、彼の夢を描いたことが「ビジョンを絵にする」という新たな道のはじまりになったのです。2013年、小さなイラストで描いた一枚からスタートしたビジョン画の仕事。個性がない、いろんなタッチで描いてしまう——かつての短所は、今では長所として喜ばれています。

その後、Facebookでの活動をきっかけに個展を開き、そこから福山駅前再生ビジョン、企業の理念や未来を表す大きな作品も手がけるようになりました。代表作は広島・おりづるタワーの乳母車のビジョン画と3か月を要した壁画。機会があればぜひご覧ください（宣伝です！笑）。

そして昨年、同窓会本部にFacebookで見つけていただき、母校へビジョン画を寄贈するご縁をいただきました。学校向けのビジョン画は初挑戦です。未来ある高校生たちに見てもらう緊張感は格別でした。取材などご協力くださった宮脇幹事長には心より御礼申し上げます。私のビジョン画の詳細はホームページにてご紹介しています。

このたびは、東京支部の会報にも寄稿の機会をいただき、本当にありがとうございました。



府中高校へ寄贈した
作品も含めてこちら
からご覧いただけま
す↓



総会・懇親会以外の活動ご紹介

東京支部では、3つの「同好会」の他に、「NEKI de プチ・プチ同窓会」や「大人の社会見学」など、さまざまな活動をしています。それぞれの世話人にお気軽にお問い合わせください。
ご自身で新しい同好会を立ち上げてくださるのも大歓迎です。

カープ観戦同好会

世話人：田辺 智也（平成3年卒）

連絡先：hiroshima.fuchu.hs.carp@gmail.com

会員数：41名（男性28名、女性13名）

会員の卒業年：昭和40年～平成25年

年2回（春と秋）東京ドームや神宮でカープを応援します。
令和7年の観戦結果は1勝1敗。二次会（有志）もありますよ～！



日本酒同好会

世話人：加藤 雅子（昭和58年卒）

連絡先：adsophia@jcom.home.ne.jp

会員数：31名（男性26名、女性5名）

会員の卒業年：昭和38年～平成2年

令和7年9月28日、神奈川県の川西屋酒造さんを見学しました。
銘柄「丹澤山」「隆」で知られ、地元農家や飲食店、酒販店さんとの連携が見事な蔵です。
忘年会は11月29日 神田の日本酒バー『酒と肴 シンメ 神田』さん



ゴルフ同好会

世話人：今川 修吉（昭和47年卒）

連絡先：shu.imagawa@kpb.biglobe.ne.jp

会員数：27名（男性25名、女性2名）

卒業年：昭和26年～平成15年

年に2回開催（土曜日）。プレ一代の他、参加費2,000円。新ペリアで順位を決めます。

第5回大会は令和7年5月17日土曜日
水戸・ゴルフクラブ。

第6回は令和7年10月25日 ジェイゴルフ霞ヶ浦。優勝は、昭和60年卒 宮本さんでした。

次回は令和8年5月16日の予定です。



NEKI de プチ・プチ同窓会

卒業年次の近い人同士、5人から10人位で、備後府中市のアンテナショップNEKI（@小川町駅下車0分）で呑みませんか？

土曜日のお昼から2時間、飲み放題です。直近では、8月23日に開催しました。

同期で人数を取りまとめてこちらへメールください。

hiroshima.fuchu.hs.petitpetit@gmail.com



大人の社会見学

駅からハイキング

現地集合・現地解散。首都圏近郊の名所・旧跡・地域を、てくてく歩きます

令和7年11月2日、新日本橋駅に集合し、15名で「日本橋七福神巡り」をしました。銭洗いの小網神社のインバウンド行列にビックリ。

次回は令和8年3月下旬頃、桜の時期に多摩川べりを歩きます（リベンジ！）

世話人：宮本 弘康（昭和60年卒）

長澄 和延（昭和61年卒）

連絡先：knagasumi2006@yahoo.co.jp
(長澄)



ゴルフ オネスト会

茨城県の常陽カントリー倶楽部で年3回開催（平日）。

令和7年7月2日の30回大会は昭和38年卒 佐藤義雄さんが優勝。

31回は11月26日。

4つの隠しホールと自己申告したNETスコア（オネストジョン）で順位は最後までドキドキ。

世話人：佐藤 宏一（昭和51年卒）

連絡先：hirokazu-sato@lily.ocn.ne.jp



令和8年度 東京支部総会・懇親会のご案内

日 時：令和8年5月23日（土）

13時から受付開始、13時30分～総会開始

会 場：東京ガーデンパレス 2階 高千穂の間（東京都文京区湯島1-7-5）

会 費：1万円／人（※現金のみの取り扱いとなります。）

電子決済等は今回は見送り、幹事会で継続検討となりました。

※なお、学生さん、同伴のお子さま（小学生まで）、そしてお身体の不自由な方を介助される方は、会費無料です。

出欠回答は同封のハガキで、令和8年5月5日（火）までにお知らせください。

※ハガキが入っていない方は、メール回答か、会報だけを希望されている方です。ご返事は、メール又は電話等で年次世話人か、下記、長谷川までお知らせください。

※当日飛び入りも大歓迎ですが、5月10日（日）以降のお申し込みは当日プログラムへのお名前の印刷が難しくなります。



令和8年度のアトラクションは コントラバス・ヴァイオリン・アコーディオンの三重奏

樋口 誠さん（コントラバス）

福山市神辺町川南出身。府中高校で音楽部に所属しコントラバスを始める。2年生で部長を歴任。明けても暮れてもコントラバスを弾いて過ごし、自分にはコントラバスしかないと思い込み音楽の道を志す。

エリザベス音楽大学に聴講生として在籍し、コントラバスを長谷川悟氏に師事。元ウィーンフィル首席の故J・シュトライヒー教授のレッスンを受講。1992年、新星日本交響楽団に合格。プロとしての活動を始める。

1999年、読売日本交響楽団に移籍し現在に至る。

1996年・2003年、福山市リーダンローズにてソロリサイタルを開催。2018年、コントラバス四重奏団“La STELLA Quattro di bassi”でCDをリリース。第49回福山音楽祭にてチェコ・フィルハーモニー弦楽四重奏団と共演。



樋口 由希子さん（ヴァイオリン）

鹿児島市出身。4歳よりヴァイオリンを始める。東京学芸大学芸術課程ヴァイオリン専攻卒業。ゲルハルト・ボッセヒ氏に師事。2003年全日本ソリストコンテスト奨励賞受賞。

2007年現代音楽展において「中心音から紡ぐ音形は、明確な方向性を持って円心状に広がり、聴き手を納め得る」と評される。

サントリホールブルーローズで開催の鶴田留美子氏ピアノリサイタルに於いて弦楽五重奏メンバーとして長年出演するなど、室内楽はもとよりプロオーケストラへの客演、レコーディングなどで幅広く活動している。



大田 智美さん（アコーディオン）

埼玉県入間市出身。10歳からアコーディオンを江森登に師事。国立音楽大学附属音楽高等学校ピアノ科卒業後、渡独。2009年2月 フォルクヴァンク音楽大学ソリストコース・アコーディオン科を首席で卒業、ドイツ国家演奏家資格を取得。御喜美江に師事。またウィーン私立音楽大学でも研鑽を積む。

帰国後は、ソロや室内楽、新曲初演、オーケストラとの共演等、国内外での演奏活動と共に、楽器についてのワークショップを日本各地の音楽大学で行うなど、特にクラシックや現代音楽の分野でのアコーディオンの普及にも尽力し、この楽器の魅力と可能性を発信している。



近年では、NHK交響楽団、読売日本交響楽団定期公演、東京・春・音楽祭、サントリホールサマーフェスティバル、Music Tomorrow、武生国際音楽祭、東京文化会館主催・現代人形劇×クラシック音楽「曾根崎心中」、NHKFMベストオブクラシック等に出演。

また国内の現代音楽アンサンブル公演にも多く客演している。CDリリースやレコードイング参加も多く、その確かな技術と音楽性を高く評価されている気鋭のアコーディオン奏者である。現在、東京音楽大学付属高等学校アコーディオン専攻講師。

令和8年度 本部・各支部の総会日程

広島支部：4月5日（日）リーガロイヤルホテル広島

関西支部：6月上旬（土）中央電気俱楽部（予定）

本部同窓会：11月14日（土）府中商工会議所

◆送り主◆編集・発行責任者

府中高校同窓会東京支部 名簿・広報担当 副幹事長

長谷川 陽一（昭和57年卒 33回生）

〒112-0011 東京都文京区千石2-44-16

TEL: 080-4001-8024 FAX: 03-5395-0644

メールアドレス：yo_hase@mac.com (oとhの間はアンダーバーです)

編集後記

編集部員5名が、リアルとWEBを織り交ぜ、編集方針やネタ出しのミーティングや飲み会を行いました。（今回実現しなかったことは、来年以降）

ご自身の飲食もそこそこに、会場内のあちこちで精力的に写真撮影してくださった撮影班の皆さま、本当にありがとうございました。ステキな笑顔がいっぱいの394枚から、編集部員4名がそれぞれ30枚選び、それを更に絞って会報に掲載しております。

新たな会場、東京ガーデンパレスの天井がとてもキレイで明るく、「ハレ」の場に来たのだと、ワクワクがとまりませんでした。

どうか来年もお目にかかりますように！

編集部：加藤 雅子（瀬尾）、入江 正徳、今田 浩明、久保田 知美（高橋）、長谷川 陽一